

テーマ『親』について

令和3年3月13日(土) 9:00-10:10

オンライン (Zoom)にて

参加者 保護者 約15名

川中子 おはようございます。そろそろ今日のサロンを始めていきたいと思います。今日はですね、これまで大体4,5人だったんですけど、今結構入ってらっしゃる方もいらっしゃると思いますので、たくさんの方に参加していただいております。

では、最初に、ズームを使ってやる上での確認をさせていただきます。(ズームミーティングの確認)

今、15人くらい参加しているみたいです。よろしくお願いします。

まず、今日の第1番目ですが、ホームページにレジメを挙げておきましたので、皆さん後で見ただけいただければと思います。今日、参加していただいている方に、自己紹介を兼ねて、お話ししていただきたいのですが、皆さんのお子さんの学年とクラス、お名前を紹介していただいて、エピソードを一つお願いしたいんですがここ1週間、または、最近でもいいんですが、「親として嬉しかったこと」は何かありましたか、というのをテーマにお話ししていただければと思います。では、まず私から。昨日、うちの4番目の娘が、高校を無事卒業しました。昨日が卒業式でした。ちょっと、大分遅くなってから生まれた子だったので、まだ高校卒業した18歳なんです。何とか無事に卒業しました。今年は受験の年でしたので、このコロナの中で受験ということで、ちょっと大変だったところ。入試も終わって、今結果を待っているところ。第2志望はなんとか滑り込みで受かったのですが、第1志望の補欠の合格を待っていると、本人は言っています。何とか4月からの目処が立ってきたところ。うちは4人子どもがいますが、みんな元気に育ててくれたのがよかったなあと思っています。これがきのうあったよかったことです。

それでは私の方から順番にお声かけさせていただいてよろしいでしょうか。それでは、Aさん。よろしくお願いします。

Aさん はい。おはようございます。3年の男の子の母です。最近、うれしかったことは二つありまして、一つは子どものクラスで漢字の50問テストがあったんですね。それを、がんばろうって親子で決めて、毎日、漢字の勉強をして。テストを返された日に「100点だった！」って。帰ってきて、すごく私はうれしくて。やっぱり、成果が出るっていうのは子どもも頑張っていてすごくうれしいことなので、それがうれしかったことです。それと、ママが作ったご飯。うちの息子は唐揚げが好きなんです。ママの作った唐揚げが一番おいしい！って言うってくれるのが、すごくうれしかったです。はい。すみません、こんな話です！

川中子 はい。ありがとうございます。それではBさん、よろしいでしょうか。

Bさん はい。2年生男の子の母です。えー、最近うれしかったことは、ここのところ、あまり校長先生の暗唱に取り組んでなかったんですけど、私の方も声をかけたりするようにしたら、急にやる気になって。今日、もしかしたら、チャレンジに行ってるかなって感じです。

川中子 はい。ありがとうございます。楽しみにしています。では、Cさんお願いします。

Cさん 3年と5年の保護者です。最近うれしかったことは、3年生の長男と幼稚園生の次男と一緒に公園に行って、お互い買ったおやつが違うものだったんですが、「僕の食べる？」と言って、二人で交換して食べていたんです。その姿を見て、うれしなと思いました。以上です。

川中子 ありがとうございます。そういう、何気ないのが親としてうれしいのってありますよね。ありがとうございます。それではDさん。お願いします。

Dさん 6年の男の子の母です。子どもは3人いるんですけど、6年生はもうすぐ卒業なんです。1年生の妹が他の小学校なので、本当に三吾からは卒業しちゃうって言うのがちょっとさみしいんですけど。3人とも、ECCの英会話に行かせていて、この間、一番下の1年生が全然できなくて、先生に「ちょっと、お母さん。」って言われて、どうしようかって思ったんですけど。6年生の子に「ママ、わかんないから教えてあげて。」って。まあ、自分が教えればよかったんですけど、あえてお兄ちゃんに頼むと、普段けんかばかりなのに、一生懸命「これはこうだからね。」ってわかりやすく妹に教えてくれたのが、うれしかったです。

川中子 とってもいいお話ですね。子どもも任せるとやる気出して、ね。いろんないいことをしてくれるなあと思います。どうもありがとうございます。それでは、Eさん

お願いします。

Eさん はい。4年生と2年生の娘の母です。最近うれしかったことは、先日の2年生の保護者会で、みんな親にメッセージカードを作ってくれていました。それで、メッセージカードを読んだんですけど、「いつも見てるよ。いつも頑張ってるね。ありがとう。」って書いてあったのがすごくうれしかったです。あの、母親になると、周りから褒めてもらうことってことがなかなかないので、すごく心に響きました。以上です。

川中子 泣けますよね！本当に。その、今Eさんが言ってくださった、「母親になると誰もほめてくれない」というの、後で話題にしたいと思っていますので、よろしくお願いします。それでは、Fさん、よろしくお願いします。

Fさん 5年生の女の子の母です。最近うれしかったのは、子供が寝るときになかなか寝付けなくて、どうしたのかなと思って見ていたら、なんかお友達とこういうことがあったんだよ、って。自分が気にしていることとか、そういうのをお話ししてくれてたことで。話を聞いて、こういうこともあるよなって。話をしたら、落ち着いたかんじで。で、次の日、大丈夫だったよっていうふうで、楽しく学校に行けたようだったので。ちょっと自分の心の中の悩み事を話してくれたのがうれしかったです。

川中子 ああ、そうですかあ…。お子さんも大きくなってくるといろんな話ができるようになってくるかなと思うので。その時その時によって、親としてのお子さんとの関わり方も変わってくるのかなって。それではGさんお願いします。

Gさん はい。3年生の男の子の母です。よろしくお願いします。うれしかったのはですね、このあいだ、振り返りシートというのを持って帰ってきて、そこに、今年一番うれしかったことというのに、今年友達といっぱい遊べたことというのが書いてありました。最初は、なかなか一緒に放課後遊ぶお友達がなかったんですけど、後半はいっぱい遊べたということがエピソードとして書いてあったんですね。うち、3年生なんですけど、本当は学童に行っていたんですけど、途中コロナのことがあったりもして、途中から亡くなってしまって、私自身もその学童を急にやめたときに、今まで学童で行っていたお友達というのもなく。なった後、放課後どういう風に過ごしているのかなと言うのは少し心配なところもあったので、そこが振り返りシートのところに…。本人もふあんだったりしたんだなって。その中で、遊べるようになったというのは、本人の成長の一つだなと思って。普段うちの中でそういった会話がきちんとできないんですけど、そういった振り返りシートに書かれていたことで、親としても知れて、うれしかったところでした。ありがとうございます。

川中子 そうですか。よかったです。そういうふうで、きっかけにさせていただいて。それでは、Hさん。お願いします。

Hさん 4年生男の子の母です。よろしくお願いします。最近うれしかったことは、犬がいるんですけど。私がちょっと腰を痛めておまして、まだ完治はしていない状態で、家族が散歩に行けなかったときに、私一人で行ってくるねって出たんですね。そうしたら、子供が「お母さん、腰痛いのに。」って言って、自転車から後から追いかけてきてくれて。散歩を、犬を引くのを変わってくれた。散歩コースもいつもと違ったところをぐるぐる探してくれて、見つけてくれたのがうれしかったです。

川中子 ふーん、そうですか。昨日も、ちょっとお会いしましたね！

Hさん そうなんです！「僕のこと、先生、わかるのかな？」って喜んでました。

川中子 分かりますよ！ 本当にね。優しいお子さんで、本当にすてきですね。それでは、Iさん、お願いします。

Iさん おはようございます。3年生男の子の父です。このあいだ、最近ですね、うれしかったことは、今ですね子供にピアノレッスンに参加させているんですけど、半年前くらいから。コロナのこともありまして、中断もありましたけど。子供がちょっとサボったり、あまり練習に熱心ではなかったり、時間もあまりかけなかったっていうこともあったんですけど。先週から、自主的に勉強したいと言って、練習しています。個人的には、リチャード・クレイダーマンの曲が好きなんですけど例えば、『エリーゼのために』とか、『渚のアデリーヌ』というのを今頑張っているんですけど。なんとなくメロディーが出るようになったのが、うれしく思っています。これからも頑張ってもらいたいと思っています。

川中子 あー、そーですか！ ○○さんが、ピアノをやってますか！ 今度、どこかで聴かせてもらいたいなと思っています。

Iさん できたら後で、校長先生に聞かせられるよう、言うておきます。

川中子 ぜひ、ぜひ！ ありがとうございます。Jさんお願いします。

Jさん えーと、学校から帰ってきたんですけど。こういう絵本を(画面に映し出して見せてくれました)作ってくれたみたいで、この中に、私の名前がのっている主人公のお話で。とってもいいお話で、うれしかったです。みなさんにも、ぜひ読んでいただきたいくらい。

川中子 ええ。今度、見せてください。

Jさん これをもらったのが、最近うれしかったです。

川中子 ありがとうございます。それでは、Kさんよろしくお願いします。

Kさん 4年生男の子の父です。最近うれしかったことはですね、子供がサッカーを小さい頃から続けているんですが、ちょっと途中までやめてしまうかなとおもうくらい、あまりいい雰囲気を持たずにサッカーに参加していたり、練習に気が入らなかったりということがあったんですけど、最近、結構コーチ(…音声で途切れました)頑張ってるのが、いいな、って思いました。もう一つ、夕飯で出たシューマイを…うちは、子供3人で5人家族なんですが、それを10個で分けたとき、一人いくつ食べられるのってきいたら、まったくもって答えられなかったんですね。これはまずい！と思って、塾に連れて行ったんですが、思いの外いろんな小学校の子どもたちが塾にいて、塾が楽しかったよって言って、今後続けられることになりました。まあ、今後、いろいろな学びの場で勉強しながら、友達もたくさん作りながら、頑張っていってこれたらいいなと思っています。以上です。

川中子 はい、ありがとうございます。そうですね。うちでもよく、このお肉、一人何個食べていいのなんて話します。男の子がいると、けっこう食べる量も多いって話をききますけど、うちは女ばかりなのでみんな控えめに食べてますが楽しそうな感じで。ありがとうございます。それでは、Lさん、どうでしょうか。

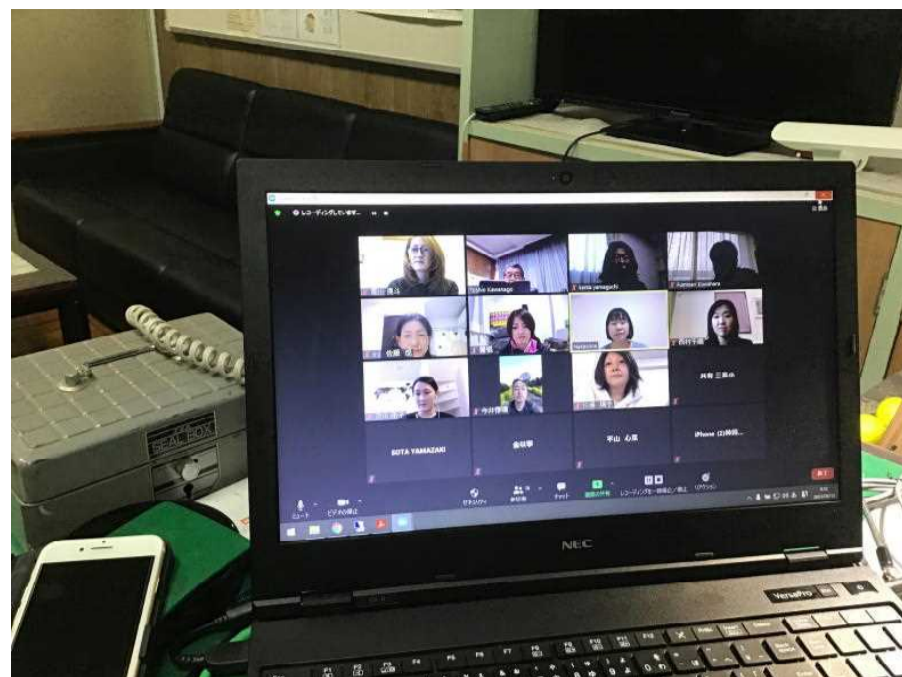
Lさん おはようございます。1年生男の子の母です…よろしくお願ひします。うれしいことは、日本に戻ってきた息子、フェイス・トゥー・フェイスの勉強ができるようになって。あの、フィリピンでは、コロナのせいで学校、オンラインになっているせいで、友達できなくて、日本に戻ってきてよかったと思います。以上です。

川中子 それは、とってもよかったです。〇〇くんは、2週間前かな？転入したんですね。1年生のクラスに入りましたが、それまではフィリピンの学校で、オンラインで参加だったと言うことですね。みんなと一緒に勉強するのは、こっちに入って初めてだということだそうですね。今、きて、みんなと一緒に頑張っています。一生懸命やっていますんで、お母さん。安心してください。それでは最後、Mさん。お願ひします。

Mさん おはようございます。3年生男の子の母です。うちは、どっちかっていうと、授業中あまり話が入ってないというタイプなんですけど、最近テストがよく返ってきて。そうしたら、本人が、「先生の言っていることがすごくよく分かるようになってきたから、勉強が楽しくなった」って言い始めて。まさか、本人から、勉強が楽しいなんて言う言葉を聞くとは思ってなかった。そこが、驚きと共に、うれしかったです。以上です。

川中子 ありがとうございます。皆さん、うれしいことがいっぱいあって、よかったですね。こういう、なんて言うのかな、うれしかった話を分かち合うだけで、今日のテーマにとっては、十分かなって気がしています。親として、子供の成長をうれしく感じる事ができるっていうのは、これは、本当に幸せなことですね。私も、今日はそのことをみんなで分かち合えたらいいなと思って、今日今回のテーマ(「親について」)にしました。それでは、皆さんに今お話をうかがって、今日は参加者もたくさんいるので、たくさんお話が伺えていいなと思います。それでは、今日は、一つ目のテーマなんですけど、「親というのはどういう存在なのか」親って、何なの？ ご案内にも、書いたんですけど、自分が親として、立派な親である、プロフェッショナルな親である、と断言できる方というのは、世の中にそんなにいないんじゃないかなと思います。私は、自分が親になってみて、子供だったときは、親というのはすごく立派な人で、何でも分かっている、すごい人だと思っていたんですが、いざ自分が親になったら、決してそんなことはなくですね。自分では何も自信もなく、なんとなく親になっちゃうんですね。子供が生まれると。これでいいのかな、あれでいいのかな、と思いつつやっていたんですね。でも、今、見るとですね、親って言うのは子供の成長を見ていると、いろんなことが気になったりすることがあるんですけど、特に子供の気になる部分ですね、実は自分の性格とよく似ている部分だったりすることがありませんかね、皆さん。なんか、二番目の娘なんか、よく腹立つことが多いんですよ。その腹立つところを見ていると、よく冷静に考えてみると、それは自分のいやだったりするところだったりするんですね。子供は、親の鏡だなんて言葉があるんですけど、なるほどなって思うことがあります。そこで見ていただきたいものがあるので、画面を共有させていただきますね。これは有名な本なんですけど、「子供が育つ魔法の言葉」という、アメリカのドロシー・ロー・ノルト博士が書かれた本の中に出てくる詩なんですけど、「子供は親の鏡」という詩があります。「けなされて育つと、子供は人をけなすようになる。とげとげした家庭で育つと、子供は乱暴になる。不安な気持ちで育てると、子供も不安になる。褒めてあげれば、子供も明るい子に育つ。アイしてあげれば、子供も人を愛することを学ぶ。」など、とってもすてきな詩だだと思います。まあ、この通りだとは思いますが、なかなか日常の生活の中で、こういう親で居続けることと言うのがむずかしいんじゃないかなと思うんですね。それで、皆さんにとって、親のモデル、というのを考えていただくと、皆さんにとって親のモデルはやはり自分の親が思い浮かびますよね。自分の親が自分に対してどうだったのかっていうことを思い浮かべると思うんですけど。皆さんは、自分の親に言われていやだったなあなんていうけいけんはございますか？こういうこと言われたのはいやだったなあ、なんて言うのは。ミュートを外してお話ください。Eさん、お願ひします。

Eさん 私は、長女なんですけど。いつも母親から、「お姉ちゃんなんだから」「お姉ちゃん



んなんだから」って言われていたことがすごく引っかかっていて、なるべく我が子には「お姉ちゃんなんだから」「妹なんだから」というのは言わないように接しています。

川中子 素晴らしいですね。他いかがですか。

Hさん うちは、兄と私の兄弟だったんですけど。ちょっと曾根さんと似てますけど、「女の子なんだから、かわいくしてなさい」という、見た目のことを言われたのが、すごいやでした。今、私も、子供には見た目のことは言わないんだよっていう風に教えています。

川中子 ああ、そうですね。今、「女なんだから」「男なんだから」っていうのは、大きなテーマになっているので、いつかこのサロンでもテーマに取り上げたいと思っています。この間、あの森さんがですね、オリンピック委員会の委員長を退任させられたあたりから、このテーマには非常に興味がありまして、また研究して皆さんとお話できたらと思います。どうもありがとうございます。そうですね。そういう風に、価値観を押しつけられていくって言うのは、子供にとってはちょっといやだったりするかも知れませんね。それでは、今度、親に感謝していること、なんていうのは皆さんありますか？これは親に感謝している、っていう。私、一つあるんですが。うちの親は、父親が大工なんです。まあ、茨城から中学校出てから、東京に出てきて大工になったんですけど。まあ、大工さんですから、職人ですので、自分は満足に勉強してこなかったと言う気持ちが非常に強くて、子供のためにいろいろ教えてあげることができないって言う気持ちがあったんじゃないかな。一つだけ非常にこだわっていたことがあって、それが「返事」だったんですね。私は「登志雄」といいますが、「登志雄。名前を呼ばれたら、立つより返事。まず、はいと返事しなさい。」これだけは、小さい頃よく言われたんですよ。そうしたら、その「立つより返事」がいつも言われているから、名前呼ばれたら条件反射のように「はい！」って返事ができるようになって。そうしたら、これがですね、学校行くようになったら、先生たちにすごく好かれてですね。すごく得したんですね。別に私は特に何も意識はしていないんですけど、教室の中で「はい！」っていうきれいな返事が聞こえてくると、先生がうれしいわけですね。この子はとってもいい子だと、勘違いしてくれるというか。親がそういう風に言ってくれていたのが、後で社会に出たときに役に立っている。とてもよかったですね。皆さんどうですか？あ、ではDさんお願ひします。

Dさん はい。私、小学3年生から書道がはじまるってことで、習字をずっと習わせてもらっていたんですね。自分はやりたいわけではなかったんですけど。大人になったら、字がきれいっていうのは、いろんなこと助けられる。なんか、頭いいように見えるし、勉強できるように見えるし。年賀状とか、お手紙とかも得意だし。そういった面では、字がきれいになるように書道を進めてくれた母に感謝しています。

川中子 ああ、いいですね。本当ですね。字っていうのは、本当に一生の財産になりますよね。本当に私そう思います。教員やっていると保護者の方から手紙とかいっぱい集めるじゃないですか。そうすると、お母さんの書いてくる字が、とってもきれいだ、すごいなって思います。それだけで。それは本当に親に感謝すべき事かなって思います。他、いかがでしょう。みんな、ありますよね！

Aさん 私も、校長先生と同じように、親にかならず挨拶だけはしなさいって言われ続けていまして。やっぱり子どもたちにもかならず、どこで会っても、必ず挨拶だけはしっかりしてってしつこくいって言っていて。子どもたちも挨拶すると、みんな笑顔でいってくれるって。やはり、そこは、本当に親に感謝といえますか、挨拶って本当に大事だと思ってます。

川中子 本当ですね。学校でも挨拶運動とかで、おはようってやるんですが。三吾あいことばの中にも、挨拶についての合い言葉「あいさつ笑顔」がありますので、取り組んでいるんですけど。家庭ですと、そういうことがしっかり身につけると、外に出たときにその子が得をしますよね。幸せな人生を歩むことができるようになるんです。これって、とっても大事なことなんじゃないかなと思います。

す。えー、画面が見えない方もいらっしゃるんですが、どうぞ声をかけてください。もう一人くらい。

Gさん 親に感謝していることはですね。私、子供の頃からそろばんだったり、水泳だったり、いろんな習い事をさせてもらって。しかも、それがほとんど長続きしてないんですけど。やりたいって言ったときには、だいたいやらせてもらえていたんですね。なので、今、親になってみると、教室に行き、入会して、お話を聞いて月謝ももちろんありますけど。いろいろ手続き等々、面倒くさいっていうところがあると思うんですけど。今思うと、いろんな習い事させてもらっていたのは、その中で最終的に合っているものを見つけられたり、いろんな経験をさせてもらったというのはよかったです。

川中子 いいですね。本当に、恵まれていたんだなって事がよくわかりますよね。そうですね。Iさん、お願いします。

Iさん 私が親に感謝していることは、ちょっと変ですけど。自分の父と母は、文章とかほとんど読めないという家庭で生まれたんですけど、自分の親は私に対して「勉強しなさい」って言われたことはないんですね。一番言っていたのは、勉強しないでほしい、ってことです。個人的には、勉強好きなタイプなので、小説とか、大学受験には直接関係ない本ばかり読んでいたんですけど。それが親としては、知らないで、学校の勉強しているとしか思っていないで、休んでくださいって言うのを一番言われたんですけど。それから実際に、私今考えているのは、今中国はあまり環境がよくない。すごく競争が激しくて、小学生から、ものすごく、夜1時、2時まで寝ないで勉強して。朝の6時には起きて。睡眠を削って競争させるのは、どうかなって思っていたんですよ。自分の経験からすると、親にあんまり、圧迫されない、責められないところで、自分の興味のある勉強をしたいという気持ちが出せれば間に合う。特に、小学生の頃はですね。ですから、それを生かして。まあ、〇〇のほうは、あまり勉強が好きではないんですけど、学校の宿題はとりあえずしっかりやる。あんまりその、親から自分の子供に、勉強学習だけに集中するとか、個人の意思に反して、それは、結局はおそらく、悪い方向にいくなじまないかな。まあ、人格形成とか、いろいろあるので。自分から勉強したいという気持ちが出れば、それが一番いいのかなって思うので。〇〇には、こういう勉強をした方がいいんじゃないのとは言いますが、それは、何時間もやらなければいけないとかそういうことではなく、強引に押しつけるって事はしないほうがいいかなってところが、自分の親から「勉強しないでください」って言われたことで、結果から、自分の親に感謝しています。以上です。ありがとうございます。

川中子 ありがとうございます。Iさんは、おそらく、勉強されて、こうやって日本語も上手になられたんだらうなって思います。日本語は、いつから勉強されていたんですか。

Iさん 自分は、中国で勉強し始めたんですけど、外国語は、自分の時代は高等学校から英語を勉強したんです。ただし、自分は日本にいろいろ影響された面もあるので、英語は勉強しなくて、独学で日本語の勉強をしたんです。それで、大学受験自体も、外国語は日本語で受験して、入ったって言うこともあって。その3年と、大学に入ってから勉強したんです。そういうこともあって、日本に来る前からある程度、日本語能力試験という、外国人向けの日本語能力の試験があるんですけど、合格したと言うこともあって。まだまだですが、ある程度のコミュニケーションはできるかなって思ってます。はい。

川中子 ありがとうございます。本当に、拍手ですね！ そうやってみてみると、自分の親のモデル、というのは、自分の親なんだろうと。言われてうれしかったり、いやだったり。そういうのをモデルにして、知らず知らずのうちに、自分の子供に話しているような影響があるのかな。最初に言いましたけど、親は偉い存在だなと思っていたけど、自分が親になってみたらそんなに偉いもんじゃなかったことが分かってきたので、子供にもあんまり偉そうにしないほうがいいんじゃないかな。私は常々思っているんですが。それでは、ちょっと、話題を変えて。「親の願い」ってことで。親は、子供にどうなってもらいたいと思っていて、そのためにこんなことをしているというのは何かありますか。いかがでしょうか。さっき、Gさんが習い事の話もしていましたけど。そんなのも含めていかがですか。

Iさん 自分としては、子供が自立できるということ。ようは、今、競争社会とは言われているんですが、健全な人格ができれば、自分で働いて生きていけるっていうこと。まあ、これは一つの意見かも知れませんが、社会的に悪いことはしないっていう、それだけです。

川中子 そうですね。まず、そこらへんが基本ですかね。特にこの、日本の社会の中では、子供にどういう風になってもらいたいですかっていうと、親御さんの多くが、人様に迷惑をかけないような子になってほしい。そういう答えをされる方が多くて、外国での調査の結果ではそう答える人は本当に少ないんですね。日本独特の考え方です。人に迷惑を欠けないように生きていきたい、っていうのは、日本では非常に強いですね。Iさん、どう思われますか。

Iさん はい、おっしゃるとおりです。私、自分としては、中国で生活した経験もあるし、日本でもあるので、両方の経験があるので比較することができるという立場にあるんですが。中国では今、だいたい勉強。出世。頑張って金を稼ぐ。親の目はそこにしか行っていないです。なので、学校での勉強は大事。絶対大事。日本で

は、自分の子供が日本の学校に入ってから分かってきたんですが、勉強というのは悪いものではない。絶対いいものです。そこは自分で実感していますので

とは言って、それが勉強だけになると、最終的には社会に出て役に立つかというそれはそうでもない。たとえば、みんなのコミュニケーションとか思いやりとか、社会とか。そういうものを、日本は幼稚園・保育園時代から…。〇〇の成長に伴って勉強しているところですけど、小学校でもまず勉強については、誰が一番、誰が2番ということ公表していません。中国では公表しているんです。そこは、人格が健全に育つというのが前提に勉強していきましょうっていうのが、日本の素晴らしいところだと思っています。これが、おそらく、日本では独特の文化といえますか、形成された根本ではないかなとは思っていますけど個人的な考えで、間違っているかも知れませんが、そういう感じですか。ありがとうございます。

川中子 ありがとうございます。貴重なご意見をありがとうございます。他いかがでしょう。こんなこと子供にさせているというのはありますか。Gさん、お願いします。

Gさん うちもIさんと同じように、子供には自分でいろいろと考えて将来生活して欲しいなというのがあって。一言で言うと、「たくましく」って言うんですかね。自分の道は自分で切り開いてほしいなという気持ちはあります。ただ、その中で、親として何ができているかという、そこが悩んでいるところではありまして。どうしたら、たくましく、自分で考えて、行動して、自分の道を自分で探していけるような子にするには、どういう子育てがいいのかなというのは、今悩んでいるところではあります。親としていろいろと導いていってあげたいというのがありますし、逆に導いていくことでそういった力が身につかなくなるんじゃないかなってというのが、ちょっとそのへん、もやもやとするところではあるので、親としてやっていることと言うよりは、今探している最中というかんじです。

川中子 まさに、その通りだと思いますね。最初に言った、「親はそんなに偉いのか？」というのと関係すると思うんですけど、親は何でも分かっている、これをやれば必ず子供が幸せになるなんて言うのが分かっている、その通りやりなさいって言うことができればそれはやるかも知れませんが、みんな自分の人生を振り返ってみたって、そんなものはないわけで。なかなかそういう風に答えが分からないことに答えなければならぬということ。まあ、子供に対して、どんな親だかって幸せになってもらいたいんですよね。できれば、自分より幸せになってほしいと、みんな思っていると思うんです。それが親がこどもにしてあげることと関係してくると思うんですけど。それが、何が子供にとっての幸せになるのかって言うのは、なかなかいい答えが出てこないものかなって思うんですね。試行錯誤しながら、うまくいったり失敗したりしながらするということもあるんじゃないかな。

それでは、今日は、たくさんの方々に参加していただいているので、時間がもう終了の時間になってしまったんですが、まだ今日話したいことの半分くらいしか話していないのですが、もうちょっと、あと5分か10分、大丈夫でしょうか？ もちろん、都合のある方は途中で退出していただいて結構です。次の議題です。しつけという言葉があるんですが、しつけについて何かお考えのある方はいらっしゃいますか。なかなか、答えにくいところかも知れませんが。

私なんかは、子供に対してはほとんど何もしてこなかったんですけど。あしなさい、こうしなさい、なんてことは言わなかったんです。そうしたらさっき言いたみたいに親が返事のことを言っていたのは、今にして見ればたいしたもんだな、よくやってたなと思うんです。私はいろんな事すぐ忘れちゃうので、これ大事だなと思っても、次の瞬間に忘れちゃったりすると、子供にはしつけにはならないですね。おそらく、きちんとしつけをしていくというのは大事だなと思うんですけど。「しつけ」というのは漢字で書くとどういう字かご存じですか。しつけというのは「身」に「美しい」と書くんですね。だから、身が美しくなる、っていうのが「躰」という字なんです。さっきAさんが挨拶の話をしてくださいましたけれど、そういう挨拶をしっかりさせる、ということをするによって、子供が社会に出たときに、その子の姿が美しく見える。これが躰なのかなって思うんですね。自分の返事のことでもそうですね。全然自分では意識してなかったんですけど、はいって返事をする事自体が、他の人から見ると美しい姿に見える。そういう風にしてあげると躰というのかな、っていうのを考えたことがあったんですけど。

まあ、しつけという、親の言うとおりにさせるとか、親がうるさい！と言って静かにさせるというのと勘違いしてしまったりすることもあるんですが。しつけのために、暴力をふるったりすることがあるというのも、よく話にはなるんですが。私も、子供に手あげたことっていうのはほとんどないんですが、まあ何回かはあるかなってことですかね。娘、一番上の娘が、何か口答えしたことがあったんですけど。そうしたら、なんてひどい口答えするんだと思った瞬間にですね、おしりをピンとはたいたりしたことがあったんですけど。親にそういう口をきくのはよくないということを教えるのはいいことなんだけれど、その手段としてひっぱいたりすることが有効かという、決してそんなことはありませんね。やっぱり、暴力は暴力でしかなくてですね、その時の自分のことを思い出してみると、ただの感情ですね。カッときたので、パンとやっつけてかんじで、何か

「愛の鞭」で何かを教えようなんてのはまるでないですね。我々教員も常々体罰はダメというのは研修でも学んでいるんですけど。暴力的なこととかで、脅かしたりすることでその子をしつけていくとか教えていくということではできないと言うことは証明されていますね。学校でも非常に気をつけているのですが、ご家庭でもそういうことは充分起こりうることなので。しつけて言う考え方のものは、大事な部分もあるので、身が美しくなるようなことができればいいなと思うところです。

それでは、最後に私の方から紹介したいことがあるんですけど。もう2年前に学校便りでも紹介したことがあるんですが、親としてどういう態度で子育てをしていけばいいのかということで、非常に参考になる本がありまして。私もその本を読んでとってもよかったなと思って、皆さんに宣伝しているんですが。今日もちよっとそれを宣伝させていただければと思っています。また画面を切り替えますね。

「育てにくい子と感じたときに読む本」という、児童精神科医のお医者さんが書かれた本なんですけど、とっても…。一つ一つの言葉がとてもよくて、自分の子育てを振り返ったときに、ああこうしてあげればよかったなあ、と思うこともたくさんありました。

(資料の確認)

ホームページの方に載せてあるので、また後で見てください。

もう一つお伝えしたいのは、私、自分のうちの子供は本当によく育ったなと思うんですね。自分の子供は4人いるんですけど、みんなそれぞれの方向に、立派に育って言ってくれたなと。親として私自身は何かやらせたりとか、無理矢理習い事させたりってことはほとんどないんですけど。まあ、やりたいって言ったことはやらせてあげられたかなってこと。それから、なんで素直にいい子に育ったかなって、たまに妻と話をするんですけど、おそらく、こんなこと言っちゃ申し訳ないんですけど、私と妻が仲良くやってたのがよかったのかなって思うんですね。決して、常に仲いいわけじゃなくてですね。特にここ数ヶ月はずいぶん厳しい状況がありまして、私も非常にさみしい思いをしたりするんですけど。反省もいっぱいしているんですけど。どう仲良くしていったらいいかというのは、まあ、なかなかわかり合えないこともあるので。私もここ15年くらい、女の人は何を考えているのか分からない、ということで。悩んでまして。いろいろ、女の人の書本を読んでみたりですとか、人の話を聞いたりですとか。この仕事をして、副校長になったとき、最初に仕えたのが女の校長先生だったんですよ。でまあ、男と女の人の考え方はいろいろ違うので、言われたことが理解できないことがあったりして悩んだりもしたんですけど。実は私中学校の教員をやっていた時に、脳科学の研究をされている方が、生徒のお母さんでいたんですね。黒川伊保子さんという方なんですけど。この方のお話を学校に来ていただいて聞いたんですけど、大ファンになってしまって。その方が、いろんな本を書かれているんですけど、ちらっと紹介させてください。またちよっと画面を切り替えます。

この黒川伊保子さんの息子さんの英語を教えたことがあります。保護者会に来てもらって、お母さんたちに話してもらったんですけど。この方が書かれた本で非常に有名になったのがありまして、この「妻のトリセツ」っていう、ちょっと挑発的なタイトルの本なんですけど。非常に話題になりまして。世の妻の人たちは怒るんじゃないかなと思うんですけど、ただ書いてあることは女の人もよく分かるんじゃないかなと。逆に「夫のトリセツ」っていう本もあります。この「コミュニケーションストレス」なんていうのも、わりと新しい本で、この本もとってもいい本で、昨日読み終わりました。この方の本はいろんなのがあるんですけど、この肩のかかっている本はどれも同じ事しか書かれてませんので、どれを読んでもいいので読んでいただくといいかなと思います。

男の人と女の人で、脳の使い方がちよっと違う。仕組みは同じなんですけど、使い方がちがうので、男と女で考え方や行動が違ってくる。お互いがなかなか理解し合えないのは、脳の仕組みが違うからだっていうのが、脳科学の研究をしている中で気付いたと言うんですね。この本を読んでも、夫として妻に、何とひどいことをしているのかと言うこともよく分かりますし、妻に夫の気持ちが何故分からないのかというのが、とってもよく分かります。これは、もしかして、夫婦の仲がよくないご家庭ですと、どちらの方も読んでいただくと危機を脱することができるお薬になる本です。こちらの「女の機嫌の治し方」という、こちらも挑発的な台の本ですが、最近学校若い職員が結婚するときに、お祝いにプレゼントしています。とってもいい本ですね。これを結婚する前に読んでおくと、いい家庭が築けるんじゃないかなと。まあ、映画なんかにもなったりしています。

それでは、だいぶ時間オーバーしてしまいましたけど、最後に一言感想などあればお聞かせ願えますでしょうか。どうでしょうか。

Aさん 感想ではないんですけど、校長先生はいつも学校のお手紙とかでも必ず、感謝のお言葉から伝えられていて、私はそれがすごく素晴らしいと思っています。親になってみて、例えば「ありがとう」の一言でいい1日が過ごせたり、本当に、感謝の気持ちで大事だなんてとても思っていて。感謝の気持ちで、夫婦でもそうですが、なかなか伝えにくいじゃないですか。ありがとうって、なかなか言

えないんですね。なので、子どもたちにも、感謝の気持ちを伝えられるようになってほしいなと思います。学校でも、いつも感謝の気持ちを伝えられてて本当に素晴らしいって思います。

川中子 ありがとうございます。今そういう風に言っていて、先日以来妻とうまくいっていないところの一つなんですけど、まったく私が「ありがとう」とか「ごめんなさい」とかいうことを言わない、と言うのが、妻は非常に不満に思っているみたいですね。これは、長年の不満、みたいなんですね。私、なんとなく、家族になっちゃると、以心伝心で気持ちが伝わっていると思っちゃってるので。ありがとう、ごめんね、と言わないといけないな。この間、カチンときたのは、「いつもそうやって、子どもたちには言ってるくせに！」とか、捨て台詞を吐かれたんですが。これは私としては、非常に傷つきましてですね。反省すると言うより、カーツときちゃう事だったんですけど。よくよく考えてみると本当にそういうことをちゃんと口にしないといけないんだなああって思います。ありがとうございます。今日、うちに帰ったらそういうことを言ってみようと思います。(後日談：言えませんでした。)ほか、皆さんいかがですか。

Dさん 我が家は主人にいろいろ動いてもらうために、私の方から感謝の言葉を。ちよっとしたことでも、パパ、ありがとう！助かった！っていうと、めっちゃ動いてくれるんで。うまいこと私が、手のひらにのっけて主人を動かしているところがあるんですけど。やっぱり感謝の気持ちはすごく大切だと思って。で、6年生でもうすぐ卒業でさみしくなっちゃうなって思うんですけど、下の子が違う学校に行っている関係で、どうしても比べちゃうんです。で、三吾の教育方針とか、いろいろやってくださるメール配信とかお手紙とか。すごくいいなって思います。他の学校には申し訳ないんですけど、三吾が素晴らしいなって思うのと、卒業がさみしいって言うふうになります。校長先生、ありがとうございました。

川中子 ありがとうございます。あの一、本当にそういう風に言っていて、私もとてもうれしく思います。ちよっと心苦しくも思っていますが。

では、今日は本当にありがとうございました。ホームページの方にさっきのレジュメとか本の紹介とか載せてありますので、また、今日の記録も起こして載せておきますので見ていただければと思います。今年最後のサロンでしたが、こんなにたくさんの方が参加してくださって、うれしかったです。こうやって、保護者の皆さんとお話ししながら、子どもたちにとってよりよいものを探していきます。これからもぜひよろしくお願ひします。